

2013年(平成25年)11月9日 土曜日

木質バイオマス

天瀬発電所が完成

年間10億円売電へ

グリーン発電大分

山林に放置されている未利用材を燃料にする「グリーン発電大分天瀬発電所」が日田市天瀬町に完成した。未利用材のみを燃料にした木質バイオマス発電所は全国2例目。関係者は、林業の活性化や森林再生へつながることに期待している。8日、現地で竣工式があった。12日から売電を開始する予定。



テープカットする森山政美社長(左から3人目)ら=8日、日田市天瀬町五馬市のグリーン発電大分天瀬発電所で



発電所を建設したのはグリーン発電大分(同市、森山政美社長)。場所は日田郡森林組合横で、敷地面積は約2万7千平方メートル。親会社「日本フォレスト」の処理工場で作られた乾燥木質チップを燃料にする。1時間当たり5700キロワットを発電し、そのうち5千キロワットを売電する。

再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度(FIT)では、間伐材などの未利用材を燃料とした発電が最も高く設定されており、売電額は年間約10億円を見込んでいる。総事業費は約21億円。県の補助金(約8億円)のほか金融機関から融資を受けた。

燃料の未利用材は、日田玖珠地域の林業関係者らでつくる日田木質資源有効利用協議会(18社)などと連携し、半径50キロ圏内から調達する。年間約6万トンのチップを使用する計画で、購入費は5億〜6億円という。

式典には林業や行政関係者ら約100人が出席。グリーン発電大分の森山社長が「未利用材の有効活用を考えたのが原点。今後も山に視線を向けて、しっかりと

やっていきたい」などあいさつ。関係者でテープカットをした。

(和田礼子)

3金融機関が総額13億円融資

日本政策金融公庫大分支店、西日本シティ銀行、豊和銀行の3金融機関は8日、木質バイオマス発電事業を始めるグリーン発電大分(日田市)に対する融資の実施をそれぞれ発表した。融資額は計13億円。

各金融機関によると、公庫が6億5千万円、西シ銀が4億円、豊和銀が2億5千万円を協調融資する。

環境分野や再生可能エネルギー事業は近年、有望な融資先として注目が高まっている。

